

させぼ夢大学

発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会

事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
https://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.325 〈2023・5〉

令和5年度
第2回

2023年5月18日(木)

開場 17:30

開演 18:20 (終了20:00)

アルカスSASEBO 大ホール

開演時刻が変更になっています。

今回は、狂言師で独特な発声と演技でお馴染みの野村萬齋さんを4年ぶりにお迎えます。

これまで祖父・6世野村万蔵さんと、父・野村万作さんに師事して、3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業後、1994年に「萬齋」を襲名しました。

狂言以外でも、俳優としてドラマ・映画・舞台など八面六臂のご活躍。端正な容姿と気品ある物腰、狂言師で鍛えられた重厚で張りのある声で存在感を示しています。

銀幕デビュー作は黒澤明監督の「乱」。その後「陰陽師」、「陰陽師II」、「のぼうの城」、「七つの会議」など多数に主演し、日本アカデミー賞優秀主演男優賞、モンブラン国際文化賞、



芸術祭優秀賞など受賞され、演技力が大きく評価されています。

TVでは、NHK大河ドラマ「花の乱」「どうする家康」、朝の連続ドラマ「あぐり」に出演。そのほか、「子午線の祀り」、「能狂言 鬼滅の刃」など、古典の技法を駆使した作品の演出なども行っています。

古典芸能として、和泉流狂言の名跡を単に守り継ぐだけでなく、異文化と交流しながら、真摯に現代に通用する表現にご尽力。狂言は、日常の中に、庶民の誰もが持っている生活感情を洗練された笑いで表現されています。

すべてに背筋がピンとしておられる萬齋さん。今日は新たな世界が広がる素晴らしい時間になりそうです。どうぞご期待ください。

のむら まんさい
講師●狂言師 **野村 萬齋氏**

テーマ・この辺りの者でござる

— 狂言のダイバーシティ&インクルージョン+SDGs —



次回のご案内

- と き／6月15日(木) 18:30~20:00
- 講師／作家 **門田 隆将氏**
- テーマ／時代を読み解く

●高知県安芸市出身。中央大学法学部政治学科卒業後、新潮社入社。週刊新潮時代は、特集班デスクとして18年間にわたって政治、経済、歴史、司法、スポーツなど、様々な分野で800本近い特集記事を執筆した。2008年に独立後、“毅然と生きた日本人”をテーマに、ノンフィクション作家として、次々と話題作を発表している。

今回の特別講演は18時20分開演です。

野村 萬齋 氏のプロフィール

●東京都出身。狂言師で重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学卒。祖父・6世野村万蔵及び父・野村万作に師事し、3歳で初舞台を踏む。文化庁芸術家在外研究生として英国へ留学し、名門ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーなどで学ぶ。帰国後は多数の公演に参加し狂言の普及に貢献する一方、映画・TV・ストレートプレイなど幅広い分野で活躍。銀幕デビューは黒澤明監督の「乱」、「陰陽師」「のぼうの城」などに出演する。TVでは、NHKの大河ドラマ「花の乱」「どうする家康」、朝の連続テレビ小説「あぐり」などに出演している。





興梠一郎氏

させぼ夢大学講演会

中国はどこに向かうのか 一帯一路体制の現状と課題 講師 / 興梠 一郎氏



今年度初回は、今まさに日々変化する世界情勢において、日本に佐世保に、とても影響のある中国の専門家の興梠さん。「原則、証拠がないと喋らない」という多方面の豊富な知識に裏付けられた言葉は、今後の台湾はどうなるのだろうか、島国の日本も佐世保もと、少々怖くなりました。

興梠さんは、生活したこともあり、友人もたくさんいら

「知る」ことで日々を豊かに


つしやるであろう中国を見て、現在の政治状況は、専門家としてどうかしく又、悔しい思いなのではないかと思えます。

佐世保市大和町 新北 博美

新聞やSNS等のあふれる情報に流されずに、丁寧に見ていきたいと思えました。

中国は、台湾を封鎖して血一滴も流さないで無血開城を目指すと、日本も人ごとではないと、とても不安になりました。ロシアがウクライナを侵攻して一年が過ぎ、いまだ停戦の見通しが立たないようです。最近又あちこちで戦闘が続いて新聞・テレビを見る度に、その国の人々を思うと心が痛みます。日本では与那国島に、敵基地攻撃能力

今年度も月に一度の楽しみで、貴重な時間を過ごせることに、またスタッフの皆様のご尽力に感謝いたします。



三行感想文
夢のとびら

■日本と中国には様々なつながりがあり、文化的共通点もたくさんあるという話や、漢字は中国がルーツということ。そして、先生がYou Tubeで4万人の登録者がいることについては、必ずチェックしようと思いました。しかし、時代は移り変わり、中国は空母3艦も所有していることや、ウクライナと中国が実は仲がよかったこと、近年の目まぐるしい発展は、確かに私が知っていることをはるかに超えているなという印象を受けました。今後の不安定な情勢を理解していくためにも、様々な視点から考えていこうと思いました。

佐世保市小島町●高増 香里

■日本に近い国の中国についてのお話を聞けると楽しみに参加し、とても考えさせられました。近い国なので、仲良くしていけたらいいのだけれど、政治的にいろいろ難しいことがたくさんあると思います。単純に人間みな兄弟と思って仲良くやっていければと願うばかりです。

佐世保市大宮町●田中 美禰

■知っているようで知らない中国の興味深い話が聞け、とてもよかったです。これからニュースを見る時に、いろいろな見方ができると思いました。

佐世保市下本山町●山口 八重子

■学ぶが楽しみ、知ると言うことは嬉しく、生活を豊かにしてくれます。令和5年度第1回目にふさわしい講演でした。今日からニュースの見方が変わります。ありがとうございます。

佐世保市小島町●高増 洋子

■私は、アマとプロの違いは、「諦めるか諦めないか」と思っていましたので、「専門家の「専」を「もっばら」と読むのはすごい。朝から晩まで専らやっている人が専門家で、時々やっている人がアマチュアである」とのお話に納得しました。「勉強(仕事)したくてたまらない」という境地に達した人が達人ではないかと思えます。

佐世保市早苗町●牧 千尋

■本物の専門家の本当の話が聞けて、大満足です。ところで、中国と本質的に仲良くなれないのは、共産党一党独裁の体制だからだろうか。

佐世保市今福町●高石 実

■いつもありがとうございます。年々寄りが増えてきていますね。バスの便も少なくなり、夜の帰りが怖いという人が多いです。お昼にするっていう考えはないのでしょうか？今年は無理でしょうか。

匿名希望

作り、演習をして威嚇的な車両が公道を疾駆したとのこと、人々の生活が切り捨てられ、77年間戦死ゼロの暦が、今、変わろうとしています。

自国を守るための安全保障政策も大事だと思いますが、抑止力になるのでしょうか？台湾から日本に学びにきている方が、台湾には帰れないかもと話されました。日本の暮らしは夢のようだと。

国のトップに立つ人の考え方で、国民の暮らしは一変します。今、岸田総理の外交努力の真価が問われます。国と自国が損をするとも話されましたが、私もそのように思います。再び戦争がない日々が続いて、安心して暮らしていけることを願っています。

柔軟な思考で、新たな時代を

北松浦郡佐々町 法本 安子

真実を知るとは凄い！ ニュースの見方が変わる。

が形成される一方で、軍事的緊張が高まっています。尖閣諸島、台湾の問題など懸案の課題が山積みです。

私たち長崎県がもっている異国情緒豊かな文化は、古い昔から現代まで育んできたもので日常生活の中に今なお色濃く残っています。チャンポン、皿うどん、卓袱料理、中華街、ランタンフェスティバルなどは、長崎の風物詩となり、賑わいを見せています。

また、アニメのスラムダンクは、中国で大ヒットブームを巻き起こしています。文化的なつながりをふまえ、現実問題を見据えること、先入観、固定観念にとらわれず、柔軟な思考で隣国との不安定な関係を良好なものへ築いていかなくてはなりません。日中間の改善、新たな時代を築いてほしいと願っています。

頭をフル回転

佐世保市赤崎町 木村 典子

今年度も留年できたことが嬉しく、また一年間学ばせてください。

本日のテーマである中国問題は、巨大国家である中国共産党が、今、台湾へ目を向けている実態があり、それが表面化してきています。台湾は、日本と同じ島国地形であり、自然災害発生等も似通っていることは確かであり、我が国への影響も多々あると考

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは5月24日(水)(必着)
※宛先は、させぼ夢大学事務局まで

えさせられます。お話のように、表面上の情報だけでなく、収集・分析をと……。なかなか難しいと頭をフル回転させています。考えるテーマを与えてくださったことに、心から感謝します。

したたかな中国

佐世保市八王子町 松井 昭夫

最近耳にする「中国式現代化」とは？ 共同富裕の理念は実現可能？ 「仲介外交」に突然舵を切った理由は？ 今回の講演は、この疑問にピッタリのテーマだった。華々しい経済成長を遂げながら、暴動が頻発するなど極めて不安定な側面もある。少数派を平然と踏みつける。ゼロコロナ政策が行き過ぎて反発が強まると、政策転換をいとも簡単にやってしまう。いやはやいまだにわかりにくい国だと思

う。そんな疑問に対し、語学を学ぶ意味から、ニュースの読み方等を「台湾包囲網」の具体例を示しながら解説してくださった。中国空母が太平洋に出てきた理由、日本の排他的経済水域(EEZ)に5発もの弾道ミサイルを落とした理由が理解できた。日本に対して、台湾有事の際には介入するな、と強くけん制しているのだ。バイデン政権は本気で中国と対立するつもりはないことも理解できた。「軍事

面の対立という、一面だけを見てはいけない。経済活動はちゃんと行われている。」と指摘する。22年の中米貿易額、中独は7年連続、中露の3月貿易額はそれぞれ過去最高という。米国は何より自国の利益を優先しているし、日本企業も中国から撤退できなくなっている。中米はそういう外交をしている。もしかしたら、現実的でも具体的にでもない「和平仲裁案」は欧米諸国から停戦と和平を求める主張が出てくるのを「待っている」のではないか？ したたかな中国を見た気がする。

やってみようかと思えた一日

佐世保市鹿子町 宮原 恵子

久しぶりの「させぼ夢大学」でした。私自身数年間プランクがあり、やっと参加できる時間ができ、友人と一緒に入学できました。

開講式の国歌斉唱。国歌を歌うのも久しぶりでした。興梠さんはテレビでよく拝見していたので、今回直接話を聞けるのが楽しみでした。予想以上に、おもしろい話でした。

中国・台湾問題……。私の乏しい知識ながら気になり、日本はどうなるのかと思ったりする今日この頃ですが、「そうなのか」と改めて考えた次第です。そして、常に探求する姿勢

緊張高まる中北露 どうする？日本！



興梠 一郎 先生

中国通の第一人者 興梠先生、教えて！

をもち続けること、それを楽しむこと！
今だからできるかもしれない、やってみようかと思えた一日でした。

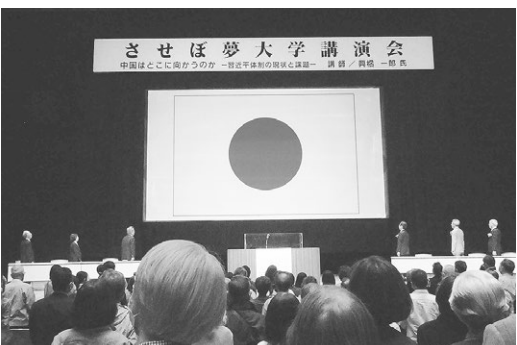
眼から鱗が

佐世保市南風崎町 横山 春美

新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、三年ぶりの開講式があり、厳粛な雰囲気があった。

トップバッターは興梠氏。中国ウオッチャーの第一人者で、テレビ出演も多く、硬いイメージを抱いていたが、冒頭「コオロギ」とカタカナで検索すると虫が出ます、と笑いを誘う場面があり、ユーモラスな一面を見た。

中国は隣国で、漢字文化のルーツであり、我が国とは文化的にも経済的にも重要な相手。今やアメリカに次ぐ大国。元々中国に関心も高く今回の



令和5年度開講式の様子

講演を楽しみにしていた。最初に、証拠がないと喋らないとの原則や、知ることは怖い、ロシアは中国を信用していない、語学を学ぶのは違う情報を獲得するため、との持論を展開。漢字の和訳が大和言葉で、日本人の受容力は凄いと評価。

台湾有事では、中国が空母や艦艇で台湾を包囲し、制空権も取るのでアメリカは手を出せない、とのアメリカの研究機関の分析を披露。最近の中国の急速な軍備増強は、東アジアの安全保障にとって大いなる脅威。しかし中国との良好な関係は日本にとって不可欠。外交交渉等がますます重要になり、政府の責任は重大。氏の専門家ならではの緻密な分析や指摘は流石だ。今後注目していきたい。

九十九島

ふもやま話

2

ミサゴ

しばた 柴田 昭隆

秋の敬老の日の頃に渡り鳥であるアカハラダカやハチクマなどのタカが鳥帽子岳・国見岳の上空を通過する。佐世保は、タカの渡りを観察できる全国的に有名な所であり、全国の鳥ファンが集まってくる。

一方、九十九島湾や相浦川河口付近では、ミサゴという鳥が観察できる。タカの仲間であるが同じ場所で見られず留鳥(りゅうちよう)であるから、年中観察できるのがうれしい。

ミサゴは海や大きな川、湖等の近くにある崖や林に棲み、魚を主食とするタカの仲間である。ワシ、タカの類はオスよりもメスが大きい。

ミサゴの大きさはトビと同じくらいか、少し小さい。猛禽類(もうきんるい)なのにピーピーと優しく可愛い声で鳴く。

全身が褐色のトビに対してミサゴは腹と翼の下が白く顔と頭も白い。メスには首に暗褐色の太い線がある。一番の特徴は後頭部にある冠羽(かんう)という羽である。警戒しているときは猫が毛を逆立てるように立てる。

ミサゴは、獲物を見つけたら翼をゆるやかに揺るがせて空中で静止する。これをホバリング飛行と言い、水中の魚をしつかりと見定めた後に急降下し、水面近くで脚を伸ばして魚を捕まえる。

米軍の変翼式飛行機が「Osprey(オスプレイ)〔ミサゴ〕」と名付けられているのは、ミサゴと同じような飛び方が出来る軍用機だからである。

魚を捕るときに水へ飛び込むため、水鳥のように脂肪が多く防水機能の優れた羽を持つ。飛び込んだ時に鼻から水が入らないように鼻穴には弁がある。

狩が得意なミサゴでも百発百中とはいかないようで、獲物を持たずバツの悪そうな顔をして水面から飛び立つこともある。

タカの仲間の猛禽類といっても無敵に強いわけではない。大きな魚をぶらさげて敵をかわしながら飛ぶのは容易ではない。せつかく捕まえた獲物を巣へ持ち帰

る途中で、身体が大きさが同じくらいのとびやカラスから横取りされることもある。

水族館と九十九島の会が共同で南九十九島に生息するミサゴを観測調査したところ、長南風島(ながはまじま)、枕島などの七つの島でミサゴが巣をつくり、晩冬から初夏にかけて子育てをしていることが確認された。

二月頃からミサゴの求愛と巣作りの時期になり、二、三個の卵を産む。メスが抱卵してオスが狩をする。六月の巣立ちの時まで雛を育てる。

ミサゴはほぼ同じ場所に巣作りをする。一度使った巣を補強して使うことも多い。遊覧船に乗ると通称ラビット岩という岩で子育て中のミサゴを見ることが出来るかもしれない。



ミサゴ (撮影:日本野鳥の会 今里順一郎氏)

～ 第2回 講演会の開演時刻の変更 ～

5月18日(木)の野村萬斎氏の開演時刻を、次のとおり変更させていただきます。

~~18時30分~~ → 18時20分

野村萬斎氏は、今回、2つの狂言を皆様にお見せしたいとお考えで、そのために開演時刻を10分間早くせざるを得ない状況になりました。

終了時刻は、予定どおり20時00分です。

2つの狂言とは、「蚊相撲(かずもう)」と、「小傘(こがらかさ)」です。

最初に、萬斎氏から狂言についての解説があり、その後、狂言を見せていただきます。

皆様、どうぞお楽しみに！

講演を聴かれた感想をお待ちしています！ 500字程度にまとめて、メール・郵便・FAXのいずれかにて、させば夢大学事務局までお送りください。締め切りは5月24日(水)必着です。こちらからも送れます➡

